



平成30年12月21日  
小田原市立報徳幼稚園  
園長 渡部ゆかり

今年の冬は、立冬を過ぎても暖かい日が多かったのですが、急に寒くなる日もあり、体調を崩してしまう子が増えるのでは・・・と心配していました。しかし、体調を崩して欠席する子はそれほど多くなく、今日は欠席0という日が何日もありました。毎週取り組んできた、ラジオ体操&3分ランニングの効果の現れ?だと嬉しいのですが、いつもいろいろなことを楽しみ、元気に遊ぶ子どもたちと、それを支え体調管理をしてくださっているご家族の力によるところが大きいと思います。とはいえ、インフルエンザ流行のニュースが流れ、先日、園医さんからインフルエンザの他にも胃腸炎も流行っているというお話もいただきました。本日で第2学期が終わり、明日から冬休みに入ります。年末年始でお忙しい時もあると思いますが、体調に留意されて、子どもたちにとっても楽しい冬休みになるようにお過ごしいただければと思います。

第2学期も、保護者の皆様には、たくさんのご協力をいただき、おかげさまで無事に終業式を迎えることができました。本当にありがとうございました。第3学期もよろしく願いいたします。

## 子どもの遊びは「積小為大」!?

『積小為大』とは、郷土の偉人二宮尊徳先生の言葉です。ご存知の方も多いと思いますが、意味は、『**小さな努力の積み重ねが、やがて大きな収穫や発展に結びつく。小事をおろそかにして、大事をなすことはできない**』です。子どもたちは遊びの中で、小事とか大事とかは意識していないと思いますが、少しずつ積み上げていった砂がいつの間にか大きな山になったり、逆に崩れないように気をつけながら砂を掘っていったらいつの間にか大きな穴が掘れていたりすることがあります。遊びの中で子どもたちは、努力を意識していませんが、**小さなことの積み重ねが大きなことをもたらすことがしばしばあります**。第2学期では、運動会や生活発表会がその際たるものかと思います。運動会は、鬼ごっこをしたり、固定遊具などの遊具で遊んだり、リレーをしたりする中で、走ることに興味をもったり、体のつかい方を覚えていったりします。年長さんのリレーでは、走り方を6年生に教えてもらうこともありました。バルーンは、第1学期から少しずつ取り組み、バルーンの扱い方を覚えていき、みんなで息を合わせることを知っていきました。年少組もそれぞれに遊んでいたことが、いつの間にか友達と一緒に遊ぶ楽しさを知り、競い合う楽しさも知っていきました。生活発表会でも、ままごと遊びやお店屋さんごっこなどのごっこ遊び、ブロック遊びや製作遊び、日頃からこつこつと取り組み楽しんできたことを、友達や教師と相談したり力を合わせたりして、一つのストーリーに仕上げていきました。年長組も年少組もそれぞれの経験が積み重なった発表になりました。小学校の1年生の学習発表会の見学をさせていただいたり、子ども同士見る会を見たりしたことも大きな刺激となっていきました。**一つ一つは小さなことでも、子どもたちが興味をもち繰り返し楽しんだり、何故だろうどうしてだろうと好奇心を膨らませたり、失敗しても諦めずに考え、試行錯誤を繰り返したりしたことが大きな結果を生むという経験をたくさんしてほしい**と思います。



ばら組のカスタナード



ほし組のバルーン



絵からも楽しさが伝わります。



ほし組『おいしいのぼうけん』、ばら組『ほうとくやまのてぶくろ』子どもや教師のアイデア満載。ほし組のチームワーク。ばら組の友達と一緒に楽しい気持ちが伝わってきました。



発表会の後も、遊びは続いています。

## あいさつは人と人をつなぐ大切な言葉

1月1日は全市一斉あいさつ運動の日でした。その日から、年長児が朝のあいさつ運動を行いました。2～3人一組で登園してくる幼稚園の友達を出迎えた姿を覚えている方も多いかと思います。あいさつ運動をする際には、『登園してくる友達が気持ちよく部屋には入れるように、元気にあいさつをしてね。』とお願いしました。始めは緊張していた当番の子どもたちでしたが、1人2人と友達に「おはようございます。」とあいさつをしているうちに、徐々に声が大きくなったり、揃ったりしてきて、当番も登園してくる子も気持ちよく幼稚園の1日をスタートすることができました。1日は、朝のあいさつから始まりますが、『こんにちは』『こんばんは』の他にも、『行ってらっしゃい』『行ってきます』『たがいま』『お帰りなさい』『どうぞ』『ありがとう』なども、あいさつのひとつだと思います。そういう言葉を自然に発せられるようになると、人とのコミュニケーションもよりスムーズになります。まずは、大人がモデルになって子どもたちに教えていきたいと思っています。第3学期には、年長と年少が一緒にあいさつ当番に立ちます。ご協力をお願いいたします。

おはようござ  
います。



## 自分の命を守り、子どもの命を守るために(防災)



第2学期は、保護者の皆様にご協力いただきながら、9月に幼保小中一斉引き取り訓練、10月に煙体験を中心とした親子防災教室、11月には、防災アドバイザーの矢崎先生をお招きして防災講演会を開催させていただきました。9月の引き取り訓練では、ご兄弟のいる家庭は、どのような順番やルートで子どもたちを迎えに行こうかと悩まれた方もいたと思います。また、普段は自然に囲まれたのどかな報徳の地ですが、いざ災害が発生した時に、「この橋は大丈夫だろうか?」「用水路の水は溢れないだろうか?」と改めて感じられた方が多くいられたことや、いざというときに慌てないために、日頃から準備をされているご家庭も多いことがアンケートからも分かりました。10月の防災教室では、火災発生時の煙体験をしていただきました。体験の煙は、人体に無害なものですが、実際の火災時の煙は匂いも息苦しさも相当なものだと思います。まずは、火事を出さないということ、万が一火災が発生したら迅速に対応することが大切です。11月の防災講演会では、なぜ日本に地震が多く発生するのか、今後想定される地震はどのようなものなのかなど、地震の仕組みを分かりやすくお話していただきました。そして、万が一に備えて

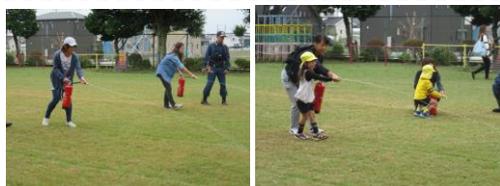


煙体験。中は真っ白でほぼ前が見えませんでした。

- ・自分の命を守るために、『落ちてこない、倒れてこない』場所を日頃から意識しておくこと
- ・家庭で避難生活ができるように、落下防止、倒壊防止の備えをしておくこと(家の中の整理整頓、安全な場所の確保)
- ・いざという時のために、『日常備蓄』(食料や水を少し多めに買っておく)をしておくこと

などが大切だということもお話していただきました。

園でも、職員と共に避難計画や訓練の仕方などを見直していき、いざという時に対応できるようにしていきたいと思っています。ご家庭でも引き続き、災害時における対応や心構えについて時折見直すようにしてください。



水消火器による消火訓練。いざという時に、慌てずに消火器が使えるといいですね。



矢崎先生の防災講演会。参考になる話がたくさん!



## 豊かな環境から育つもの

子どもたちは、自分たちを取り巻く様々な環境に触れ、そこから多くのことを感じたり、考えたりしながら、学びを深め成長していきます。人も自然も物も全てが子どもたちを取り巻く環境ですが、物が豊かにあることが良い環境かというところでもありません。生活発表会を見にきてくださった方が、子どもが持っていた小道具について、「苦勞して作ったものは、あんなに大事そうに持つものなんだな。」としみじみとおっしゃってくださいました。子どもたちが、自ら興味をもって取り組める、質の良い環境が豊かな環境だと思います。第2学期も多くの人や自然との関わりの中で、子どもたちはいろいろなことを感じ、学んでいたと思います。

### <人との関わり>



6年生には、速く走る方法を教えてもらいました。その後のリレーに生かされました。



1年生の秋祭りに招待されて、楽しみました。園に戻ると、早速再現している子もいました。



未就園児の友達と一緒に体操。自分よりも年下の子と触れ合うときには、表情も声も優しくなります。



保育園のばなな組さんと『ひつつきもつつき』をして遊びました。子どもなりに一生懸命おもてなしていました。



西栢山敬老会に歌や踊りを披露したほし組。たくさんの拍手をいただき、子どもたちもやり遂げた満足感を感じていました。



加藤さんのサッカー教室。ボールを蹴ったり、ゴールに運んだりすることを遊びながら楽しみました。



絵本の読み聞かせでは、大勢のボランティアさんに毎月いろいろな本を読んでいただき、子どもたちの世界も広がりました。



『ベルすずらん』さんの調和のとれたハンドベルの演奏に、うっとり。もっと聞きたいという声も聞かれました。

★他にも、たくさんの方が子どもたちと触れ合い、幼稚園に関わってくださいています。

### <自然との触れ合い>



にこにこ畑では、第2学期もいろいろな野菜の植え付けをし、たくさんの野菜の収穫をしました。土に触れ、育てていく中で、成長の様子に気付いたり、野菜につく虫に興味をもったり、いろいろな発見がありました。収穫した野菜もおいしくいただきました。



城北中学校の校庭と報徳小学校のビオトープ（報徳ランド）では、落ちてきているドングリが違います。幼稚園のドングリも合わせると3種類以上のドングリが揃います。



園庭の落ち葉集めも散歩先での数珠玉集めも子どもたちにとっては楽しい遊び。触れることで、形や硬さ、特徴等にも気付くことがあります。

## 報徳幼稚園・冬の風物詩『報徳冬場所』

毎年、10月の稲刈りの後の藁運びから始まる報徳幼稚園の相撲大会『報徳冬場所』。今年も、藁運びも、土俵作りも、相撲大会も、この時しかないというほど好天に恵まれて、無事開催することが出来ました。日本の国技である相撲は、礼に始まり礼に終わります。土俵に入る前に相手に対してきちんと「お願いします。」と挨拶をし、取り組みの後も互いの健闘を称え合い、「ありがとうございました。」と挨拶をします。もちろん勝つ喜びも味わっていますが、簡単には負けない粘り強さや、負けた相手にも手を差し伸べられる優しさも教えていただいています。今年も土俵作りには西栢山自治会の皆さん。相撲大会には、旭丘高校相撲部の岸田先生、千葉先生、7名の部員さんにご協力をいただきました。ありがとうございました。



10月、園前の田んぼの方からいただいた藁を1ヶ月程かけて乾燥させ、12月にほし組が家の人と一緒に1本1本藁の回りをしごき芯を取り出します。直径10cmほどの束にして、麻紐で結わえた俵が全部で20本。土俵に土と砂を混ぜて入れたら、出来た俵を溝に1本ずつ埋めていき、最後はみんなで「1・2・1・2」と俵の周りを踏み固めていきます。土俵作りもまさに『積小為大』です。



平成30年版の土俵の完成



報徳小1年生に相撲の対戦申し込み。快く受けてくれてありがとうございます。



家の人と一緒に考えた四股名の取り組み表も出来上がりました。



みんなで育てた冬野菜（大根・人参・里芋・白菜）で、役員さんとスクボラコーディネーターさんがちゃんこ鍋を作ってくださいました。とても、おいしかったね。



平成30年度報徳冬場所は、全部で46番の取り組みがありました。その中で、ほし組は36番の取り組みを行い、22個の白星を上げることができました。勝ち負けだけではなく、ほし組や1年生のひたむきな姿が、応援している人に感動を与えてくれました。



準備体操や取り組みの時の諸注意も丁寧にさせていただき、いざ取り組み開始。



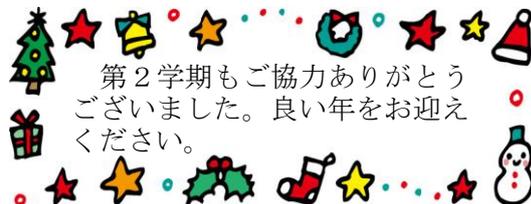
手に汗握る、熱戦の連続に、応援の声もどんどん大きくなりました。



大会終了後のブレイクタイムには、相撲部の皆さんと触れ合う時間もとっていただき、子どもたちは大喜びでした。

## ありがとうございます

今年も、バザーを開催していただき、その収益金と昨年度積み立ていただいた収益金とをあわせて、『年少組の靴箱』を新しく購入させていただきました。また、年長組の卒園記念品として、『ままごとキッチン』を購入させていただきました。子どもたちも大喜びです。大切に使用させていただきます。ありがとうございました。



第2学期もご協力ありがとうございました。良い年をお迎えください。